

議事録：石狩小学校校舎利活用検討委員会第2回会議

■日時：平成30年8月29日（水）午後4時～午後6時

■会場：いしかり砂丘の風資料館、石狩小学校

■出席者

石狩小学校校舎利活用検討委員会委員

- ・村山耀一
- ・百瀬 響
- ・鈴木明彦
- ・池上重康
- ・吉田光岐
- ・金田 稔
- ・石黒嗣康
- ・石山優子

事務局

- ・佐々木隆哉（生涯学習部長）
- ・東 信也（社会教育担当次長）
- ・工藤義衛（地域資料担当参事・学芸員）
- ・志賀健司（文化財課主査・学芸員）
- ・石井 悟（文化財課主査）
- ・坂本恵衣（文化財課主事・学芸員）

■欠席委員

- ・越田賢一郎
- ・伊井義人

■傍聴者

1名

1. 委員長あいさつ
2. いしかり砂丘の風資料館見学
3. 利活用に関する委員提案について
4. 今後の取り組み予定について
5. その他

(資料館見学：志賀より砂丘の風資料館（バックヤード1階、2階含む）、旧長野商店（2階の収蔵区域含む）について説明のち石狩小学校に移動）

石 井：改めまして村山委員長よりご挨拶いただきたいと思います。

村 山：今日は二回目の会議になります。今日は砂丘の風資料館のすべてを見せていただき、さらに長野商店の復元の状態や2階の現状について見ました。そうした現状を踏まえてみなさんご意見を聞いて、今後の方向が決まっていくのかなと思いますのでよろしくおねがいします。

石 井：ありがとうございます。次に前回の委員会に欠席されましたが、今回ご出席いただきました委員の方をご紹介します。

(委員紹介)

次に、事務局側で前回欠席でしたが、今回出席になったものを紹介したいと思います。

(事務局自己紹介)

なお今回ですが、越田委員、伊井委員が欠席となっております。

今後の進行を村山委員長お願いいたします。

村 山：先ほどとも関連しますが、教員を退職してから私もこの砂丘の風資料館で3年ほど働いておりましたが、その時はまだ地ビールの工場がありまして、職員が動けるスペースが限られていたのですが、今回その工場が撤去されて以降初めて見ましたが、色々なものが収納されていること、その状態についてはみなさんの感想を聞かせていただきたいと思います。全体的に手狭な中で、ご苦勞されているというのが現在の様子かと思われます。そこで、皆さんに課題が出されていたかと思いますが、それぞれがどのような方向でこの円形校舎、また資料館も一体として活用していけばいいのか、ご意見をお聞かせいただければよいのかなと思います。

石 井：今回皆さんから意見をいただいたのですが、資料を配布しておりますので、その順番でご覧ください。

村 山：ではまず、資料館を見た感想を順番に一言お願いしたいと思います。

百 瀬：地方の博物館はどこも収蔵庫がいっぱいになっているというお話を聞いていましたが、こちらもそうだったんだな、と思いました。少し心配だったのが、空調があまりうまくいっていないということで、空調が必要な資料はあるのかなというこ

とが心配だと感じました。

鈴 木：学生をつれて色々な講座に参加させていただいてもう 10 年近くになります。やはり志賀さんもおっしゃっていましたが、自然系となりますと資料が大きかったり、また作業スペースも必要であったりするので、手狭かなと感じました。また、特別展や企画展をするとなるとそのための資料も取っておかなければならない。そういった中で財政難とかで場所を確保することができない。大きな博物館でも大変ですが、そうしたバックヤードというものの充実といいますか、先ほど百瀬先生もおっしゃっていましたが、私の関係ですと石みたいなものではそれほどいいものではないのですが、きちんと保管されて次の世代に活用されるような、そんなバックヤードが必要なのではないかと思います。

池 上：地方行政に関わらず国でさえも収蔵スペースがないという状況ですが、ただ、人口減にともなって公共施設特に小学校などが開いてきているなかで、そういった施設を有効に活用すべきなんだと改めて感じました。現状、作業等の関係であらして資料をしまっているのだと思いますが、作業するものと当面使わないけどしまっておかなければならないもの等の選別をしっかりと、収蔵スペースの足りなさを保管する施設だけにここをしないで、今あいている校舎などを考えていかなければならないと現状を見て感じました。

吉 田：いつも子供たちがお世話になっている施設ということもあって、バックヤード側を見たことはありませんでしたが、びっくりしました。こういう状況でお仕事をされているんだということ。そして説明にもありましたが、3 点の役割、そのすべてがきちんと果たされているのだろうかという不安、働かれている方は不安に思われているのではないかなと思いました。先ほど、標本を作られている様子を見せていただきましたが、まさしく理科室、本校の理科室の机でやっているんだというイメージだったのですが、もっとスペースがあったらとか、もっと有効な使い方ができるのではないかなとか、少し想像してみさせていただきました。また収蔵についても空調等があまりうまくいっていない中で保存されているというのも、大事な歴史的な資料が今後どうなっていくのかという不安がありましたので、そのあたりが今後改善されていったら良いなと思いました。

金 田：私はびっくりしたのは、そのままになっていること。今おいてところで整理されているとおもった、そのまま置いてあるだけです。私は行政をやっていて、退職してもうすぐ 18 年になりますが、このスタイルでやっていたのだとびっくりしました。いずれにしても今回こういう機会があるので、資料を整理して、色々円形校舎、体育館どう使うかはこれからの議論があるにしても、お金のことは我々はおいておいて、それは行政にまかせることで、私たちはここをこうすべき等、忌憚のない意見を出して、整備していくべきだと思います、大変だとは思いますが。

石 黒：私も資料室の倉庫をみてびっくりしましたが、今後どうするのか、浜益の資料もあ

れば厚田の資料もあるということで、それを一箇所ですべてどうやっていかしていくのか、それがすごく重要だと思いました。厚田や浜益の人たちにもみてもらわなければならないのではと思いました。また、私は本町の出身なものですから、いずれできる資料館につきましては、今の資料館とは違う体験型といいますか、また来るような、何度も足を運んでくれるような施設にしてほしいなと思いました。

石 山：バックヤードを見てやはり資料館なんだなと改めて思ったのがひとつ、そしてあれだけ貴重な資料がこれまで日の目をみずに来たというのがもったいなく、これから子供たちにつなげるためにもどうこの建物を活用していくべきか一生懸命考えなくてはいけないと思いました。

加 藤：まず資料館の方ですが、展示施設については色々模様替えもされていて良いと思いました。バックヤードについては、作業場、加工場、研修スペースというのが一緒くたになっているということでやはり特に地域の方々を受け入れているということで、研修スペースがほとんどない中で運営しているんだなというのをまず感じました。長野商店については意外に痛みはそんなにないなという印象で、湿気ももっともっているかと思いましたが、結露のあともそんなになく少しほっとしているところでした。

村 山：色々他方な意見をありがとうございます。

次に、みなさんから提出いただきました活用案についてですが、お手元の資料の順番に従って円形校舎の活用についてお話お願いいたします。

百 瀬：皆さん、砂丘の風資料館、長野商店をごらんになってお分かりかとおもいますが、石狩とアイヌというのが非常に重要なものですが、そういったことがわかる展示がありません。書き方がわからなかったもので、都市マスタープラン等を参考にした少し長いものになっています。具体的な提案としては①石狩場所（近世、近代）と石狩アイヌの展示、②近代以降の樺太アイヌと石狩の関係を表す展示が必要なのではないかということで提案させていただいています。①の石狩場所に関しては、砂丘の風資料館、関連施設（はます、厚田）の中でアイヌとのつながりはよくわからないので、石狩場所、というものが北海道史の中でも重要な位置を占めていますので、それをふまえてかつ郷土教育に使う形にしてはどうかと提案しています。②の樺太アイヌというのはご存知の方もいるかもしれませんが、石狩アイヌ、石狩場所に加えて、石狩は樺太アイヌとのつながりもあります。八幡墓地にある樺太アイヌのお墓は千島・樺太交換条約によって対雁に移住させられた際に疫病その他によって激減した際に来札等に再移住人々の遺骨です。遺骨については平成3年に調査、そして建立、慰霊祭等を石狩市が協力して行ってきた経緯があります。現在は平成30年度に国立のアイヌ民族の慰霊施設が作られることになっていますが、ここは色々な団体との交渉が行われていまして、遺骨の扱いについてはそこに入れるというのに反対に人々もいます。樺太アイヌ協会の方々と石狩市では現

在遺骨問題について交渉されているということで、石狩市と樺太アイヌ協会との今後の関係について街づくりミッションでしめさせていただきましたが、樺太アイヌが終焉の場にこの石狩を選んだということでおそらくは石狩の墓地にある遺骨それから副葬品についてこれから決めていくことになるとおもいますが、それに関わる歴史というものを残していただきたいなということで提案させていただきました。

池 上：前回の話し合いを経て、私なりに3つ考えました。まず、円形校舎の建物は創建当時の用途、つまり学校は学校として使われるのが理想であるが、今回はそれが難しい、ただ学校のような使い方ができるのではないかというのが前提です。そして前提条件の2つ目として今見学してきたように教育委員会文化財課のアネックス（別館等）としての利用が考えられている。そして前回うかがったように学童保育の施設としての利用も期待されているというのが前提条件だとも思います。

建物の歴史的価値としては、北海道内にある円形校舎として現存最古のものです。鉄筋コンクリートの校舎としても、函館を除けば古い部類に入ります。それから円形校舎といえば坂本鹿名夫ですが、その人意外が設計した円形校舎の中でも古い部類になります。

現状全国の他の円形校舎として、坂本鹿名夫の最古のものはもう壊されています。そして群馬県にある大学は国の登録有形文化財になっています。三重県のものは昭和37年のものでさえ国の登録有形文化財になっています。そして長野県のものは現存最古の現役のものです。そして一般公開されているものは円形劇場として使われています。それ以外は公開というものはほぼないというのが現状です。

活用提案として①石狩市内の子供たちを対象とした宿泊体験施設に転用。つくりつけの2, 3段ベッドやテントの利用。円形校舎の教室で授業をうけるということが体験活動になるとおもわれます。これが最初に言った校舎を校舎として使うということです。この教室の状態で授業に使えるように保存しておくことで、子供たちが授業を体験できるということです。これは先ほどのお話にあった標本を作るというのではなく、授業をする、ということも学習の一つであるという発想です。そして増築部分については文化財課として使う場合は、作業整理等の文化財業務をワークショップ的に体験できて学校教育と生涯教育のタイアップが期待できるのではないかと。また調理実習等もできると思います。また、宿泊を伴わない体験もできると思います。人数が多くなければ近隣の市町村からの受け入れを考えてもいいとおもいます。またこうすることで、税金を市民に還元でき、理解度も高まるのではないかと思います。②あまりこない子供たちの宿泊だけではペイできないので、一般人としての宿泊機能も考えられると思います。最近はやりの簡易宿泊所あるいはゲストハウスといった用途を目指すのがよいのではないかと。食事は自身で調達、あるいは調理室の貸し出し（電子調理器等も使用）ができるので。夏季は

グラウンドでかまどを利用したりということも可能だと思います。また地元の食材を入れることで地産地消にもつながります。入浴施設については新設はむずかしいので、番屋の湯を利用すればよいと思います。朝食など給食風のもを提供できれば、宿泊客も疑似体験できます。ちなみに札幌には給食カフェというのがあり、意外に人気があって固定客もいたりします。復元にあたっては、中央ホールのトップライトは復活してLEDなどを入れると魅力的なのかなと思います。窓サッシについては工藤さんから当時の図面をもらいましたが、模型と少し作りが違って、木造のごついサッシがあるのも確認できましたので、復元改修の際にはもう少し確認する必要があるのではないかと思います。

石 山：私は展示等については、専門の方々がいらっしゃるので、おまかせしていい、すべきなのかなと思います。

私の提案の主旨としましては、今後、本町から人がいなくなって、建物だけが残ると思います。そして、10年、20年後を考えると、この円形校舎が残るとどんな意味があるのかということを考えると、最低でも子供とか、一線位までの住人とかそうした人たちがどうしたら利用してくれるのかということを考えました。そうすると、地域住民へのアンケートだったり、意見交換会くらいはしてほしいと思いました。

また、この建物が改修などをされて、換わった後の管理体制がどうなるのか教えていただきたいと思います。

村 山：私からはまず、資料整理ができていない、資料の目録などが無いというのは作業ができるスペースがないからということが考えられます。そのため、そうしたスペースが確保できる必要があると思います。

そして展示については、石狩市で統廃合、閉校になった学校は多く、石狩小学校も含まれますが、そうした学校があった証を示すような展示室が必要かと思います。児童生徒が学校の歴史を学ぶ場、これは見学、体験学習を通してですが教職員や市民の視察の場としても必要と考えられます。また、現在砂丘の風資料館やあつたの道の駅展示、はまます資料館がありますが、石狩市の農業、酪農、漁業、生活の歴史、幕末、アイヌの関係を含めた歴史を児童生徒や市民が学ぶ場がないということで、これらが必要であると考えます。

石 井：本日欠席された委員の方の提案について一部補足をさせていただきます。越田さんの提案をごらんください。まず建物の保存活用にあたって、使用年限をあらかじめ確認し、計画しておく必要があると思います。というのも、道の開拓記念塔がありますが、100年記念の際に建てられたものですが、50年が経過し、劣化しているという問題があり、この建物を何年維持でいるのか、100年とはいわずとも20年、30年先はどうかという見通しが必要なのではないかという点を考える必要があるということでした。以上です。

鈴 木：今回資料は提出していませんが、私からも一つ提案いたします。この地域ですが、海岸にも近く、津波はどうか、標高やハザードマップにおける位置づけ、またそれらに対する備え、リスク面についても考えるべきかと思います。

佐々木：備えるという点ではその必要は十分にあるかと思います。ですが、昨年の浸水想定見直しを受けて、さきごろ市のハザードマップの更新が行われましたが、この地域は最大の津波でも砂丘は越えないという状況だったはずです。また、石狩川の洪水による浸水も場所的にはずれていると思います。

石 黒：砂丘の風資料館と連携しなければいけないのでしょうか。どう連携していくのでしょうか。

金 田：2つの建物を切り分けるというのではないのでしょうか。

池 上：日々、収蔵物というものは増えていきますので、連携してどちらの建物も有効活用していかないとアウトなんです。その中でどう使って、人々を魅力していくのかという所だと思います。砂丘の風資料館を研究、石狩小学校を公開、収蔵は別の建物とか、すみわけをきちんと決めていく必要はあると思います。

村 山：一方の建物の耐久について先に考えると何もできません。両方を使っていくという前提で考えていきませんか。

鈴 木：砂丘の風資料館は現在自然の展示も多いですし、百瀬先生や村山委員長もおっしゃっていますが、歴史的な部分が少ないです。そういうものを学べる場がほしいと思います。小学校を部分的に残すということもできます。砂丘の風資料館を野外的利用、石狩小学校を子供も参加できるようにするとか、両方を使う前提がいいのかなと思います。体育館を含めてそういう体験の場とかを考えていくべきではないでしょうか。

加 藤：本来は小学校なので、教育施設として使えないかなとは思いますが。サテライト校のような使い方をしてはいかがでしょうか。1週間の訪問とか、教育委員会のバスを出したりして。

百 瀬：切ってしまうという考えがありましたが、第3回でエコミュージアムにいきますが、都市全体を博物館とする考え方で、都市の中で分担しながら全体を見る、活用する、そして石狩市全体を活性化していくという考えはどうでしょうか。これはあっちに行くのがめんどくさいという人もいるかとは思いますが、大きいハコをつくれるわけではないので、分担という考え方が良いと思います。

村 山：道の駅、はまます資料館も含めて全体で、ということかなと思います。先ほどから皆さんがおっしゃるように子供たちのためにということを考えるべきかと思います。

吉 田：この地域から学校がなくなるというのはとても悲しいです。実習とか色々学びの場というのを残してもらえればと思います。地域の方ともこの地域からなくなるということを話すとアンケートをとってほしいという声もあがると思います。明り取り

を戻すとか教室を残すということはうれしいですし、そういう子供のためのものが残るのがうれしいです。

村 山：子供のため、地域の方のことというのはとても大事なことだとおもいます。次にどういう展示がいいかという所も考えてもらえないでしょうか。

池 上：長野商店の蔵に歴史部分がありますが、それでは足りないということでしょうか。

村 山：あれはあくまで本町の一部ですし、樽川等の地域も含めて全域のものが必要だと思います。

池 上：郷土学習は何年生でやるのでしょうか。

百 瀬：3、4年生です。歴史は5年生からやります。

池 上：社会科教室みたいなものがあって、資料がある、授業も受けれるといった部屋があればよいのではないのでしょうか。文化財保護法が改正されると、今度から国にあったイニシアチブが行政に降りてきます。そうするとどう付加価値をつけることができるかという部分を考えていくべきになります。展示だけではなく、アクティビティも含め考えなければいけません。

百 瀬：ふるさといしかりなどがありますが、私たちはそういう社会、歴史だけを示したいわけではなく。

池 上：いろんな種類の部屋があり、移動して勉強できるようなものにしたら良いということです。今いったような社会の部屋、理科の部屋など。

村 山：博物館という意味で、理科室など水が使える部屋はこうした活動に使うなどという使い方の面についてはどう考えますか。

百 瀬：砂丘の風資料館は現在博物館類似施設で、博物館ではありません。これだけ学芸員がいるのに驚きました。博物館としての体裁は保障したいと私は思います。活動の場という考え方もあるとは思いますが。

池 上：展示は、というような考え方に収蔵庫の話になると思いますが、実際のどのくらい収蔵場所がほしいとお考えですか。

村 山：活動の場もありますが、作業、収蔵場所、とかこういうことにも通じていくのではと思います。展示、活動、文化財課で必要と思うところとかが必要だと思いますが、その割合はどうですか？

佐々木：今回の皆さんのご意見も踏まえ、第3回が視察になっていますので、第4回で皆さんにお示しする予定でした。

石 黒：石狩の中から子供たちが本町に来ています。教室や資料室があるとなおさらくるのではないのでしょうか。ボランティアに説明を受けたりとかもしています。

石 山：全然別の話だと申し訳ないですが、円形校舎がこの地域に残るというのを一番重要視していて、私は海浜植物保護センターにいますが、地元の人ほとんどきません。私も学生の頃石狩に住んでいましたが、存在を知りませんでした。地元の人にとってはよくわからないということがよくあります。砂丘の風資料館の資料の大切さ

もわかるが、子供はくるけどその親はこない、授業ではくるが、日常ではこない。そうなってほしくないです。どれくらい愛着をもってもらえるかという所を検討の内容に入れてほしいです。お年寄りの方も多い地域ですし、広い世代を含めて、また冬なかなかこれない場所であるということも含めて。

村 山：センターとも連携した形で考えなければならないですね、ガイドボランティアの人々も頑張っているとは思いますが。

鈴 木：展示に注目すると、どんどん難しいものになって、人がこなくなるとかがあります。アウトラインが見えるところと、興味を持つ人が見るところとが必要だと思います。通なところは企画展とかありますね。

池 上：次回エコミュージアムに行きますが、エコミュージアムというのは建物自体を見るというのが原則です。リピーターを増やすのもいいですが、1回いくだけでもいいと思います。日本全国が1回きてくれればそれだけでペイできます。その1回きてくれるようにできるか、そういう作りこみをしなければならないと思います。伝統建築群というのがありますが、あれはインバウンドの人しかいないが、しっかりもとがとれています。そういう所の工夫ができるかどうかだと思います。展示の内容うんぬんではなく。学校として円形校舎を活用している場所は1つしかありません。なので、2つ目でどう使えるかという所です。全国的に円形校舎は壊してしまっているのです。

村 山：色々出て、まだ不足な部分はあると思いますが、第3回を経て、また意見がでると思いますので、今日は今日なりの決論、意見が出たのではないかと思います。

佐々木：先ほど石山さんから改修後の管理体制についてご質問があったかと思いますが、趣旨をもう一度お聞かせ願いますか。

石 山：新しく人を雇う、または現在の職員を分けるとかそういったことですね。

佐々木：人員を増やすという可能性はあります、学芸員を増やすというより、施設管理という形になるかもしれませんが、ただ、まだそういったことも含めて詰まっております。

村 山：人員といいですか、配置の問題もありますね。そうした部分も含めて第4回で聞かせていただきたいと思います。

今日はお疲れ様でした。

以上

議事録を確認しました

平成 30 年 10 月 31 日

石狩小学校校舎利活用検討委員会

委員長 村山 耀一